

合唱団ホームページアドレス <http://www.wiengifu.org>

音楽とは 横への感性なり!

4

月号

2018年4月1日
編集・発行/
ウィーン岐阜合唱団

ウィーン岐阜合唱団創立 20周年 記念パーティーに参加させていただいて

大垣支部 ハルトン 岡田 富雄

私はウィーン岐阜合唱団に入団してやっと2年目を迎えたところで今回記念パーティーの参加でした。20分の1年しか見ていなくて、団の歴史に関しては何もわかりませんが、この一年で感じたことは、森島団長のもとにスタッフの人たちが大変まとも良く積極的に仕事をされているということです。今回でも、少し早めにホテルのほうに行きますと、すでにスタッフの人たちがお客様をお迎えされていました。今回の開催に向けてスタッフの皆様、本当にお疲れさまでした。もちろん、このまともも平光先生と伴先生なしには有り得ないことで、素晴らしい組織の一員になれたことに感謝しています。そして入れ替わりはあったでしょうが、この20年の歴史を作ってくられた団員の皆様に感謝です。団の周年行事として、できれば20年在籍の団員の方や過去の功労者に感謝状があってもいいかなとは思いました。

さて、21年目がスタートし、今年の夏の定期演奏会の課題曲は「ぞう列車がやってきた」です。

ちょうどパーティーの会場にこの物語を書かれた小出隆司先生が来られており、物語のエピソードと歌を披露され、心に伝わってくるものがありました。あその後、早速河田さんから借りた絵本を読み、8年前の定期演奏会のDVDを見てみました。涙が止まりません。感情が入るということはまさにこのことでしょうか。いつもの練習で平光先生が「生きてくれ!!」「いのち」などの言葉と歌い方を大切にされていますが、今一そこまでの感情移入ができていなかったように思います。これは絵本の効果でしょうか。子供たちの純粋な歌声と動きのせいでしょうか。2年目の私が言うのは早いと怒られるかもしれませんが、歌詞の情景をどのように歌に込め、お客様に伝えるかの大切さを少し理解できた気がします。今回の定期演奏会ではお客様と一緒に感動を共有化し、一緒に涙が流せれば最高ですね。お客様ファーストの考えのもと、8年前のものよりも進化した「ぞう列車がやってきた」を見せることができるよう、団員みんな楽しく知恵を出し合ひましょう。

ウィーン岐阜合唱団 創立 20周年 おめでとうございませ

岐阜本部 アルト 吉川 栄

極寒の季節、少し寒さが和らいだ2月25日 岐阜グランドホテルでの音楽パーティーに参加させて頂きました。普段の生活とは違った雰囲気の中、少し気後れしながらも何時もの役員さんの艶やかなお姿でお出迎え頂きパーティーへの期待が膨らみます。ウィーン岐阜管弦楽団の「春の声」に始まり、和子先生、真由子先生の数々の独唱は何時ものながら私たちに感動を与えて下さいます。この20年間「岐阜の街 ウィーンの如く・・・」平光先生のご努力は計り知れないものがありますが、その願いは確実にこの岐阜の街に根付いているのではないのでしょうか。本日来場のご立派な来賓の方々は、平光先生のご人徳の顕れだと思えます。なかでも「ぞうれっしゃがやってきた」の小出隆司先生は、この度の演奏曲の原作者であり、その人間味溢れるお人柄には親しみを感しました。

お待ちかねのウィーン岐阜合唱団ならではの乾杯の歌は、何時でも嬉しく楽しいです。管弦楽団の演奏に乗って歌う、何と贅沢なことでしょう。会場が一体となって合唱はこの上ない至福のひと時でした。

今後もこの合唱団が、25年、30年と発展されることを心より念じております。身近なクラシック音楽を嗜む程度の私をオペラの世界へまで導いて下さいます、そして馴染みのない言語への挑戦もさせて下さいます。入団年数ばかり過ぎて行きますが、なかなかスキルアップに繋がりません。それでも私の人生が、より豊かなものになっている事は間違いありません。先生方の熱心なご指導に感謝しつつ100%お答えできませんが、今後も自分なりに努力して楽しんで参りたいと思っております。先生方はもとより、事務局の方、スタッフの方々、日頃のご尽力に心より感謝申し上げます。

ウィーン岐阜合唱団 20周年の歓喜 そして未来へ

岐阜本部 ソプラノ 新田 ひとみ

満開の白梅の香りが、春到来の便りを届けるころ、岐阜グランドホテルにおいて、ウィーン岐阜合唱団創立20周年記念パーティーが行われました。

音楽総監督として、合唱団を率いてこられた平光先生の人望の厚さを物語るように、多方面から大勢の方々にご参集いただきました。

総勢約200人が一同に会し、合唱団の歴史を紡ぐ絆の強さを感じさせる、至福の時でした。

高鳴る胸に、まずはヨハン・シュトラウスの「春の声」が、華々しい祝賀の始まりを告げます。

心も弾み、ウキウキするような美しいワルツは、喜びを映す鏡のように、眩く光を放ちます。

その輝きは、伴和子先生、真由子先生の独唱をもって、さらなる高揚感に導きます。

情感のこもった歌声やピアノの音色に、鳴りやまぬ拍手と“ブラヴォー”が今も心に残っています。

平光先生と共に、2人3脚で支えてこられた道のりを、感慨深く思っておられることでしょう。

そして、何を置いても忘れてはならないのは、県下唯一のプロフェッショナルオーケストラ、ウィーン岐阜管弦楽団です。

美しく奏でられるオーケストラの演奏にのせて、オペラ「杉原千畝物語」「人道の桜」や、ベートーヴェン第九番メインテーマなどを合唱しました。

この音楽パーティーでは、20数曲もの素晴らしい演奏を聴かせていただきました。

私達は、プロのオーケストラの伴奏を従えて演奏会ができる、恵まれた環境にあります。

その幸せは歓喜の歌声となり、会場を埋め尽くした人々の心に届けられたと信じています。

合唱団員の一人一人が歴史を作る主役であり、足並みを揃えて明日へ踏み出す決意を固くしました。

余韻にひたりながら、ウィーン岐阜合唱団「十年のあゆみ」を手にしています。これは、創立10周年を記念して発刊された時の、懐かしい冊子です。

その中の平光先生の言葉に「想えば幼少のころ、父親のヴァイオリンを聴き、ステレオを聴きながら、タクトを振る父親の姿を見て、こんな世界もあるものだと知ったのが、指揮に興味を持ったきっかけかもしれません。」と、ありました。

まさに初々しい指揮者誕生を捉えた瞬間でした。

そして、「今ある環境を当たり前にするのではなく、常に新鮮な気持ちで音楽に接する心を持てば、10年後の夢はさらに大きく翔たくことでしょう。」と、結ばれていました。

20年の歳月を経て、その着地点に舞い降りた今日こそ、夢はみごとに花開いたのではないのでしょうか。

積み上げられた歴史の重みを感じつつ、新たな夢である夏の定期演奏会に向かっていきます。

“ぞうれっしやがやってきた”の初回の演奏は、今から19年前、第2回ウィーン岐阜管合唱団定期演奏会でした。この冊子に、当時の合唱団新聞の記事がありましたので紹介します。

・・・名古屋の東山動物園での実話を元にした曲で、戦争中北王園長さんが象を守ったお話しを音楽にしたものです。

サーカスの象4頭が東山動物園で飼われることになり、象使いの少女達が別れるのを悲しみ、泣きながら雪の降る道を動物園へ送りました。

やがて戦争が激化して空襲が始まり、猛獣処置令が出て、次々と動物達が殺されていきます。

しかし、園長さんは「象を殺すなら私を先に！」と、射殺に身をもって抵抗し、象を守りました。

でも悲しいことに2頭は食料難で死に、マカニーとエルドは助かりました。

戦後日本の動物園に象がいたのは東山動物園のみ。何とかして象に会いたいという子ども達の思いを聞いて、当時の国鉄が各地から名古屋へ「ぞうれっしや」を走らせました。サーカスの少女が象を送る場面は、歌いながら涙が出てきました。

先日偶然テレビで、子ども達がマカニーとエルドと楽しそうに遊ぶ様子や、うれしそうな象達の姿を見て、涙が出てきました。子どもの合唱団も加わり、とても感動的な演奏会でした。・・・遙かな時空を超えて、この感動が再び蘇ります。

平和な日々への願と命の尊厳は、大きなうねりとなって押し寄せ、人々の魂を震わすことでしょう。

ウィーン列車夏号は、あふれる喜びと熱い思いを乗せ、空をかけてあなたのもとへ走ります。

“20周年記念パーティー”に参加して

大垣支部 アルト 臼井玲子

ウィーン岐阜合唱団 創立20周年記念！ 夢☆音楽パーティー！正に、最初から最後まで素晴らしい、そして心地よい音楽パーティーでした。先生方やスタッフの皆様の「アイディア」一杯で楽しい3時間でした。ご来賓の方は、「ぞうれっしゃがやってきた」の小出隆司先生や、リトアニア友好協会の坂水様と音楽を通じてお世話になった方々、幅広い先生の友人、団員、OB、家族、友人の方、総勢200人に近い人達が先生の周りに集われました。

最初は、お迎いの音楽としてヨハン・シュトラウスの「春の声」で、会場がざわついて落ち着きがなかったのでしょうか、2度も演奏されました。開会を大きな声で知らせるより、音楽で感じて欲しいという先生の心づかいでしょうか。会場も静かになりました。

ウィーン岐阜管弦楽団の皆様、長時間に亘って素晴らしい演奏聴かせて頂きありがとうございました。最後尾で聴いていた私は椅子をずらして先生の指揮とオケの皆様が奏でられる曲を手でリズムを取りながら聴き入りました。そして、以前に先生が言われていた事を思い出しました。「パーティーの為のオケ練習、当日2時間ぐらいしか出来ません。皆プロですから大丈夫。プロとはどんな曲であっても、どんな指揮者に出会っても、即興で演奏出来ます。その為に日頃から練習を積み重ねています。」厳しい中にこの美しい音色があること一層強く感動しました。

和子先生、真由子先生のソロやデュエットがとても良かったです。「親子で歌えるなんて素晴らしい」と、羨ましかったのですが、今回はその音色がとてもピタリと合っていて胸が熱くなりました。お客様の中に「ブラヴォ

ー ブラヴォー〜」と、1曲ごとに声を張り上げた方がありましたが、心からそう思われるのでしょうか。

帰りの電車の中でも興奮の延長で、話が弾みました。オケの演奏が生で聴けて良かったね。とか、練習をして一所懸命歌ったけど、お酒が入っていた分チョット乱れて惜しかったとか、オケ伴奏で愛唱歌を歌えて良かった…。いつの間にか大垣終点でした。

追伸、実は、10周年のパーティーにも参加させて頂きました。入団したのが平成18年ですから2度目に当たります。あのお迎いは邦楽グループによる琴の演奏でした。定かではありませんが、4人の正装したご婦人の奏でる曲で始まったのを思い出します。また指揮者体験コーナーもあり、岐阜で1人、大垣で1人選びなさいということでした。誰かが指名してくれて私が出ることになりました。2週間ほど前にCDをお借りして家の鏡の前で手を振ったり、出だしの合図や終止の合図を工夫し練習しました。ところが、当日出番の直前に先生が「見本を見せます！」と、言われ曲に合わせてご自分の頭を叩いたり、腰をひねったり、一回りしたり、「何だ。こりゃー。」びっくりです。でも今更お客様の前で拗ねることもできず、舞台上に上がりました。初めはコンサートマスターの真彌さんの顔も見れたものの、後は誰も何も目に入りませんでした。ただ私に合わせて下さっている音を感じながら夢中で振りました。腰もひねりました。会場は笑いの渦でした。その後先生がホローするように、最初から指揮をし直して下さいました。あれは、いい思い出でした。最後に、スタッフの皆様お世話になりました。これからもよろしく願いいたします。

第19回ウィーン岐阜合唱団 “第九”演奏会を終えて

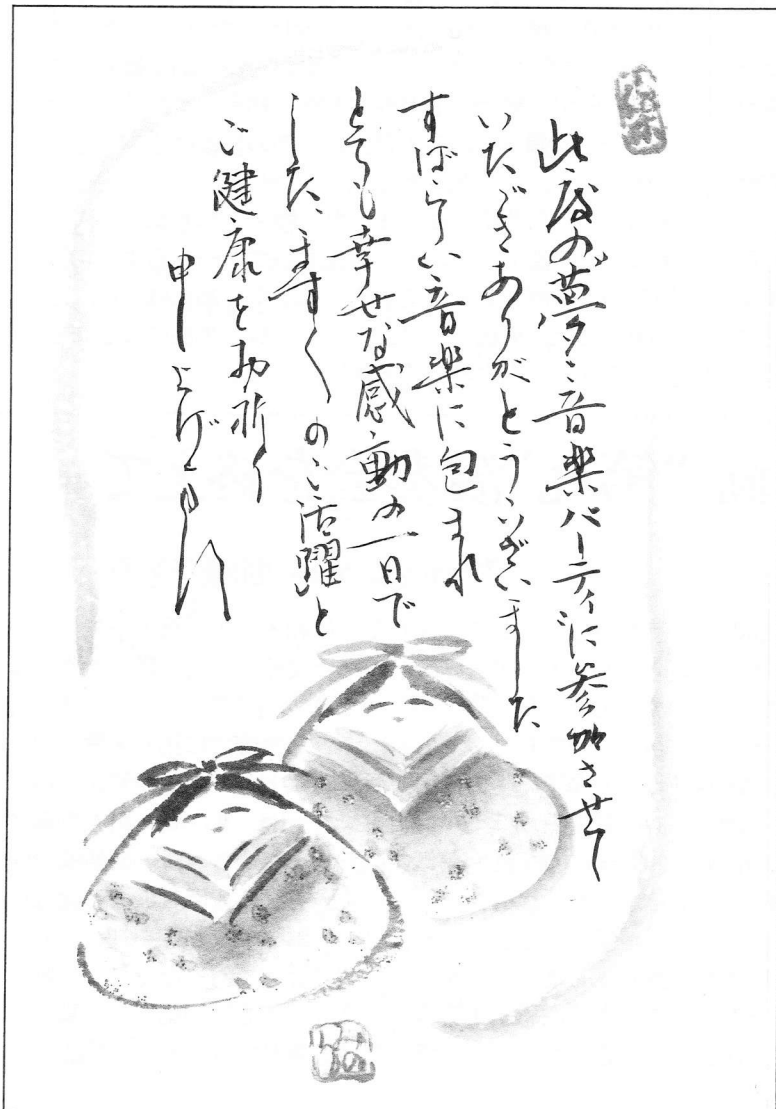
大垣支部 アルト 加藤 寛子

感動の喝采の中、第九を歌え終え、まさに至福のひと時を得ることができました。伴和子先生、真由子先生のソロの演奏にうっとり、ウィーン岐阜管弦楽団の演奏と共に、リトアニアとの楽しかった交流会を思い歌ったクールギリア、人道の桜など、“ウィーンの如く 音楽し”でした。私の“第九”合唱への憧れは随分前のこと、一度は挑戦したものの挫折し心のどこかで“第九”への火がくすぶっていました。ある時、ふとした機会に第九を歌うウィーン岐阜合唱団を知り、自分の技量も知らず飛び込みました。和子先生の「第九は最初にドイツ語の発音が大切」との指導にCDを聴きながら口の中でモグモグと練習、曲の音階もおぼつかないまま1回目、2回目と第九の演奏会を迎えました。パートリーダーの方やアルトの合唱の仲間達に囲まれ、勇気づけられ、ハーモニーの醍醐味を味わいながら歌い終えた時の感動は今も体の中で沁み込んでいます。しかし、今回私にとっての第3回目の演奏会は反省のみ、色々な課題を与えられました。舞台での立ち位置が変わることにより、自分の歌唱の未熟さを知り、しっかりアルトの旋律を的確に身に付けることの大切さを実感しました。リーダーや仲間へ甘えて何となく今まで歌えていたことからの独り立ちです。平光先生のユーモアのある指揮に思わず笑みがこぼれ、作曲家の第九への真意を理解しなさい、との教えに合唱の奥深さを知り、初心に返り諸先生方のご指導を受ける事ができる幸せに感謝しつつ、少しでも前に進めることが出来ればと思います。

4~6 月練習予定

練習時間は 18:45~20:45 です。(18:30 には集合しましょう!!)

月 日	岐 阜	月 日	大 垣
4 月 5 日 (木)	長森コミュニティーセンター	4 月 6 日 (金)	大垣市南地区センター
4 月 12 日 (木)	長森コミュニティーセンター	4 月 13 日 (金)	大垣市南地区センター
4 月 19 日(木) 岐阜・大垣 合同練習 長森コミュニティーセンター			
4 月 21 日(土)~4 月 22 日(日) 合 宿 於:コージュ高鷲			
4 月 26 日 (木)	長森コミュニティーセンター	4 月 27 日 (金)	大垣市南地区センター
5 月 10 日 (木)	長森コミュニティーセンター	5 月 11 日 (金)	大垣市南地区センター
5 月 18 日(金) 岐阜・大垣 合同練習 瑞穂市(穂積)総合センター2F 多目的ホール			
5 月 24 日 (木)	長森コミュニティーセンター	5 月 25 日 (金)	大垣市南地区センター
5 月 31 日 (木)	長森コミュニティーセンター	6 月 1 日 (金)	大垣市南地区センター
6 月 7 日 (木)	長森コミュニティーセンター	6 月 8 日 (金)	大垣市南地区センター
6 月 14 日 (木)	長森コミュニティーセンター	6 月 15 日 (金)	大垣市南地区センター
6 月 21 日 (木)	長森コミュニティーセンター	6 月 22 日 (金)	大垣市南地区センター
6 月 28 日 (木)	長森コミュニティーセンター	6 月 29 日 (金)	大垣市南地区センター

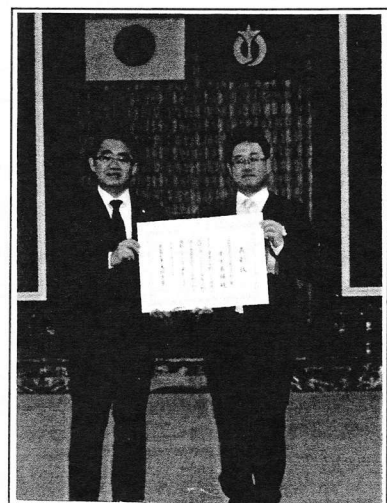


元 ウィーン岐阜合唱団団員 福井 みのりさん寄

祝

我がウィーン岐阜管弦楽団のコンサートマスター「平光真彌先生」が愛知県芸術文化選奨文化新人賞を愛知県知事大村秀章氏より賞けられました。

愛知県芸術文化選奨は、芸術文化の各分野においてその向上発展に貢献され、その業績が顕著な方々を選奨することにより、愛知県の芸術文化の振興を図ることを目的とし、昭和 52 年度から実施しております。



大村愛知県知事とともに